

## 近現代史(34) アジア諸国の改革と民族運動①「中国分割の危機／日露対立と列強」

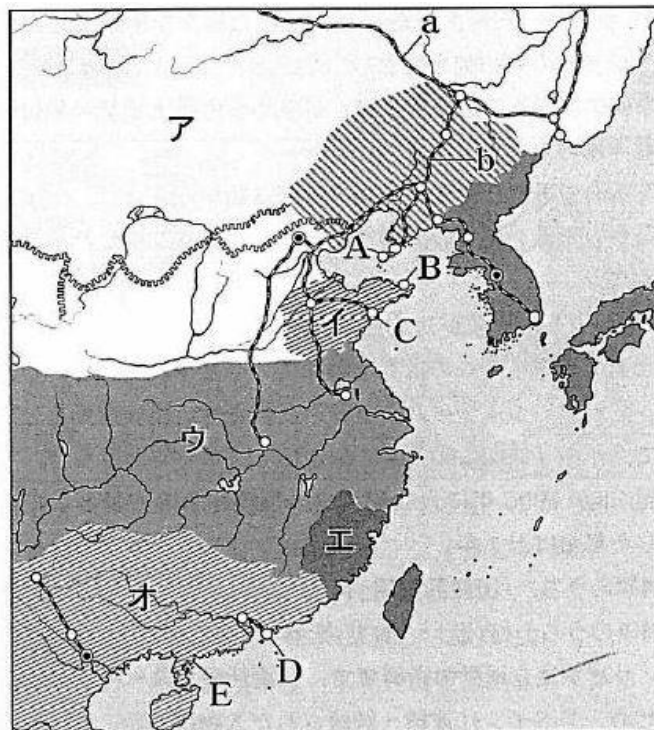
○今回のポイント

日清戦争による中国の敗北は列強による分割を招き、義和団事件が勃発した。  
事件後、ロシアの朝鮮への圧力が強まり、日清戦争が勃発した。

### 【中国分割の危機】

#### (1)列強による中国分割

- 日清戦争で清朝敗北 →列強、利権獲得競争
- ↓
- 列強の動き
- ①[1. 三国干渉]
- ・ロシア、シベリア鉄道の建設。南進をねらう。
- ↓
- ・日本、下関条約で[2. 遼東半島]獲得(1895)
- ↓
- ・ロシア[3. 仏独]を誘い遼東半島を返還させる。
- ↓
- ・露は代償として[4. 東清鉄道]敷設権獲得(1896)



#### ②租借地と勢力範囲

- ・独、宣教師殺害事件を口実に[5. 膠州湾]獲得。
- 列強の中国分割始まる。

国名	勢力範囲	利権・租借地
ロシア	[ア. <u>東北地方</u> ]	東清鉄道敷設権・大連、[A. <u>旅順</u> ]
ドイツ	[イ. <u>山東地方</u> ]	[C. <u>膠州湾</u> ](青島市)
イギリス	[ウ. <u>長江流域</u> ]	[B. <u>威海衛</u> ]・[D. <u>九龍半島</u> ]
日本	[エ. <u>福建地方</u> ]	台湾・澎湖諸島
フランス	[オ. <u>広東・広西・雲南</u> ]	[E. <u>広州湾</u> ]

#### ③アメリカの動き

- 米西戦争で[6. フィリピン]獲得 →中国進出への関心の高まり→しかし合衆国は出遅れる
- ↓
- 国務長官[7. ジョン=ヘイ]の三原則 : [8. 門戸開放]・機会均等・領土保全]

#### (2)変法

- [9. 変法]…日清戦争敗北後、日本の明治維新に習い議会政治を基礎とする立憲君主政の樹立を目指す
- ↳中心 ; [10. 公羊学派](『春秋』の注釈の一つ「公羊学」を重視。社会変革・実践志向)
- [11. 康有為]…公羊学派の立場から変法自強を提唱。保皇派として孫文の革命派とは対立。
- [12. 梁啓超]…康有為のもとで変法運動に活躍。辛亥革命後は司法総長などを歴任。
- [13. 戊戌の変法]…1898年6月～9月。光緒帝が登用した康有為・梁啓超らにより推進された政治改革。守旧派や保守派によりわずか3か月余りで失敗。
- ↓
- [14. 戊戌の政変]…1898年9月。光緒帝の変法を西太后を中心とする保守派が弾圧した事件。光緒帝は幽閉され、西太后の政治が復活した。

【日露対立と列強】

(1)[15. 義和団事件]

①民衆の排外運動の激化

- ・[16. 仇教運動]…19世紀後半に中国各地で起こった反キリスト教運動。1860年の北京条約でキリスト教の布教が認められ、中国各地でキリスト教に関連する事件([17. 教案])が起こった。
- ・[18. 義和団]…山東省を根拠地とした義和拳という武術を修練した白蓮教系の宗教結社。華北一帯の貧民・流民・下層労働者に広まり、勢力を拡大。「扶清滅洋」を唱えて武装蜂起した。

②[19. 義和団事件]

- ・1900～1901年。山東で蜂起した義和団が北京に侵入。清朝は義和団に同調して列強各国に宣戦布告した。8か国共同出兵が行われ、列強により北京は制圧された。

③[20. 北京議定書](辛丑和約)

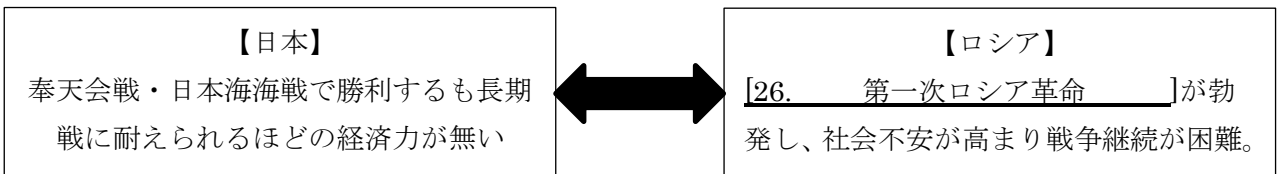
- ・義和団事件の講和に関する最終議定書。[21. 北京駐兵権]、巨額の賠償金の支払いなどが決められた

(2)日露戦争

①朝鮮支配をめぐる日露対立

- ・義和団事件後・・・ロシアは中国東北部から撤兵せず、朝鮮への圧力を強める。  
※李氏朝鮮は1897年に[22. 大韓帝国]と改称し皇帝の称号を用いて独立を示す。
- ・英米の対応・・・ロシア南下を警戒  
↳イギリス→[23. 南ア]戦争(ボーア戦争)で極東に兵力を避けず、[24. 光栄ある孤立]を放棄して日英同盟を結び、日本にロシアをおさえさせる。
- ↳アメリカ→中国進出をねらって日本を支援。

②[25. 日露戦争](1904～1905)



③[27. ポーツマス条約](全権は小村寿太郎とヴィッテ/アメリカのセオドア=ルーズヴェルトが仲介)

- a. 日本の[28. 韓国保護権]
- b. 遼東半島南部(大連・旅順)の租借権の譲渡
- c. [29. 東清鉄道]支線の一部(長春～旅順間)。
- d. 北緯 50 度以南の[30. 樺太]の割譲
- e. 沿海州漁業権の譲渡

【列強による日本の韓国保護権の承認】

- ・[31. 桂 - タフト協定]  
→アメリカのフィリピン支配を承認
- ・日英同盟改訂(05年第二次同盟)
- ・[32. 日仏協約]  
→仏のインドシナ支配を承認

(3)日露戦争後の国際情勢

日本の勝利によるアジア諸民族の民族的自覚の昂揚	ロシアの外交政策の転換
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国；[33. <u>中国同盟会</u>]結成</li> <li>・ベトナム；ドンズー運動</li> <li>・ペルシャ；イラン立憲革命</li> <li>・オスマン帝国；青年トルコ革命</li> <li>・インド；インド国民会議カルカッタ大会</li> <li>・インドネシア；サレカット=イスラーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[34. <u>日露協約</u>](1907～計4回)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国利権の相互承認。</li> <li>・朝鮮→日本、外モンゴル→ロシアの勢力範囲</li> </ul> </li> <li>[35. <u>英露協商</u>](1907)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・イラン南北分割</li> <li>・アフガニスタン英領、チベットには不干渉</li> </ul> </li> </ul>